

「歌が伝える日本の心」 〜歌に描かれた心と美しい言葉〜

千葉県千葉市立さつきが丘中学校 飯田 良

一 童謡・唱歌を学習材にした単元

1 単元のねらい

歌い継がれてきた童謡・唱歌・流行歌を学習材として、日本人が持ち続けてきた感性の豊かさや鋭さに気づかせることをねらった単元を企画した。歌詞に描かれた言葉を分析することを通して、歌全体に込められた思いを想像させる学習である。

2 単元の目標

- ① 歌い継がれている歌詞を通して、日本人のもつ感性の豊かさや鋭さを捉えようとしている。(関心・意欲・態度)
- ② 歌詞に現れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げることができる。(読む)
- ③ 話すこと・聞くことの学習を重ねることを通して、相手の考えを尊重しつつ、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりできる。(話す・聞く)

④

事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、歌詞の中の語彙について関心をもつ。(言語事項)

ここでは、第七〇回国語教育全国大会(平成一九年八月五日、日比谷公会堂)における提案授業の概要を紹介する。

3 学習の実際(4時間扱い)

① オリエンテーション。童謡・唱歌・流行歌を読み直す。季節を表す言葉を見つけ出し、その事象を捉えつつ、どんな思いが描かれているかを考える。(1時間)

一斉授業で「栄冠は君に輝く」(加賀大介作詞・古関裕而作曲)の歌詞の鑑賞を行う。I 具体的に季節を表す言葉、II 五感を通して事象を捉えているという視点、III 作者の秘められた思いについて確認し、歌詞をどう読めばよいか共通理解した。次に、誕生日を基準に季節ごとに三〜四人単位のグループを編成し、小集団学習を始めた。教師が選んだ童謡・唱歌を三曲ずつ与え、

そこに描かれた事象や思いを捉える学習をした。さらに宿題として、家族に「心に残る季節の歌」についてインタビューし、歌詞を書き留めさせた。

② グループごとに調査・考察し、「季節を代表する曲」の発表準備をする。(2時間)

インタビューした内容を紹介し合った後、様々な歌の中から、「季節を代表する一曲」をグループごとに決定した。歌詞に注目して、それぞれの思いを語り合いつつ、歌詞を吟味しながら季節を実感させるお薦めの曲を選択していった。

モデルとして、教師が「故郷」(高野辰之作詞・岡野貞一作曲)を題材に発表の例を示した。大まかな流れとして、I 簡潔に歌の魅力を紹介する、II メロディーを紹介する、III 注目した言葉や表現を紹介する、IV その歌の魅力を具体的にアピールするという方法を提示した。「2分間でまとまりのある発表をしよう」を合い言葉にグルー

絵コンテ	動き	担当	セリフ	BGM
	(ラ、シカセ、リ、タ、マ、シ、モ、流、し、) (マイ、ア、シ、ム、バ、)	() ()	皆、冬と云えば、何と思ひ出し 何か？ 「白」とか「寒」とか「雪」とか 思ひ出さると思ひます。 その中でこの歌は冬と云う 子供達を温かく見守るよすが 歌詞の教員により作り出されて いくわけだとその歌詞を 紹介しよう。	火 ↓ 切 ↓ や 二
	(紙を出す) (二人) 持たせ () ()	() ()	青い線のあるのは視覚で分かる 赤い線のあるのは使われている 用語。 赤い線と青い線は視覚で 分かるもの、だと考えました。	↓ ↓ ↓
		() ()	この歌は解釈を3と目で見 ると冬と分かる表現が多く あり、そして、表現を強調 すること、子供達にとっては 寒い冬をイメージしているのと 考えられます。	↓ ↓ ↓
		() ()	フォリ、この歌は幼少時代に聞い ても大人になってから聞いても お互いの立場で思ひ出の冬を 思ひ出すことのできる広い年代 の人々から愛されている歌だ。	↓ ↓ ↓

生徒たちが作ったシナリオ

③ グループの発表をする。互いに気づいたこと、感じ取ったことを交流することを通して日本人の心に迫る。(1時間)

十二のグループ発表の後、自分の選んだ歌と比較して、その共通性や違い、変化してきているものについて感じたことを自由に発表した。さらに、本単元のまとめとし

て、「日本人はどんなもの(思い)を歌い継いできたのか」をみんなで考え発表し合った。

二 音楽科との「ラボレーション」

その授業を受けて、平成二〇年八月二十七日、千葉市の中学校音楽科の先生方を対象にした講座「日本の唱歌に用いられた美しい言葉」の講師を務めた実践を紹介する。

1 講義……新学習

指導要領に見る国語科と音楽科の共通点(中学校音楽科の目標から)

- ① 言語力の育成・活用の重視

鑑賞で、根拠をもって自分なりに批評するなどの活動を追加生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりすること
② 伝統や文化に関

する教育の充実

〈歌唱教材について〉

我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、自然や自然の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものを取り扱う。

以下の共通教材の中から各学年ごとに一曲以上を含めること。「赤とんぼ」「荒城の月」「早春賦」「夏の思い出」「花」「花の街」「浜辺の歌」(以上七曲)

2 歌詞の鑑賞のしかたを知る

「栄冠は君に輝く」、「故郷」、「夏は来ぬ」

3 各自が共通教材から一曲選り鑑賞する

4 グループで交流し、さらに鑑賞する

5 発表会、講師による解説

音楽科の先生方が日本語の美しさを学び、歌をより理解することで、指導法が高まり生徒の表現も深まるに違いない。国語科と音楽科が連携することで、心を育てる有効な学習が展開できると考える。いい歌が人を癒し心を豊かにすることを改めて見直したい。

いいだ まこと ①つ見ても、②い男、③まっついていても、④あ素敵、⑤まっっちゃう、⑥にかく魅力の飯田良です。まずは授業を楽しんでます。